

[和歌山県紀の川市]

すえふさ
末房たいち
太一さん (39歳)

自らの手で作りたい思いが強くなり

末房さんの前職はパティシエ。「お菓子を作る上で色々なフルーツに出会い、同じ品種でも産地・年度で味が違うと気づいた」ことが、フルーツを作ることに興味を持ったきっかけだといいます。そんな折、昨今の農業問題、規格外品の廃棄問題に直面し、一次生産から加工を一貫して自らの手で作りたいとの思いが強くなり、就農を決意しました。

販路確保や加工へも挑戦

和歌山県農業大学校での研修を終了後、住居の確保など、自治体や地域のサポートを受けて経営を開始しました。

現在は果樹の6割が未成樹であるため、しばらくは辛抱の時期となりますが、ホームページと直売所を軸とした販路の確保など、単価を向上させるために売り方を工夫しています。また、いろいろな産地を見て勉強し、加工にも取り組んでいきたいと考えています。

これから就農する人へのメッセージ

農作業は体力的に辛い場面もありますが、お客様に「美味しかったよ」と言ってもらったときには一年の疲れも吹っ飛ぶくらいの喜び・充実感がありますよ。頑張ってください。



◆ 経営概況

作目：桃
経営面積：100a



◆ 就農までのみちすじ

平成21年

就農を決意



平成22年

和歌山県農業
大学校で研修

平成23年

経営を開始